

令和八年度日本航空高等学校

第二回模擬試験問題（国語）

受験番号

氏名

一 次のA～Cの問いに答えなさい。

A 次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 市民がまちづくりに参画する。
- 2 類似品に注意する。
- 3 最後まで油断は禁物だ。
- 4 汚れを速やかに取り除く。
- 5 反対意見を唱える。

B 次の1～5の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 時間をキントウに配分する。
- 2 するどいカンジュ性をもつ。
- 3 ソクリヨウして地図を作成する。
- 4 事業をイトナむ。
- 5 別の方法をココロみる。

C 次の1～5のそれぞれの問いに答えなさい。

- 1 次の□に体の一部を表す漢字を一字入れ、慣用句を完成させなさい。
彼の態度はとも失礼で□に余る。
- 2 次の□に適当な漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい。
あの人のさっきの発言は非常に意味□長だ。
- 3 傍線部の敬語の種類として適当なものを次のア～ウから選び記号で答えなさい。
書類をわたすために、取引先の会社に伺う。
- 4 次の文章を文節に分けると、文節はいくつになるか。漢数字で答えなさい。
昨日は公園で中学時代の友人とたくさん話した。
- 5 随筆作品を次のア～エから選び記号で答えなさい。

ア 平家物語 イ 万葉集 ウ 徒然草 エ 源氏物語

二 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

航は海辺の町で漁師の子供として育ったが、家の仕事を継がず、東京の大学を出て建築士となった。妻の綾は少し悩むところがあり、今は、農家である富士山麓の実家に帰っている。航も、久しぶりに故郷の父母のもとへ帰った。

「コウ！」後ろから名前を呼ばれて、振り返った。網を手にした隆士の父親が立っていた。「おまえ、帰ってきてたんだってな。知らなかったから、おやじさん今日借りちゃってたよ、悪かったな。」日焼けした浅黒い顔が、にやっと笑った。一瞬、**A** 感を覚えて、それで **①** 気が付いた。父親じやなくて、隆士本人だ。あまりにも俺が子供の頃の父親に似過ぎていて、わからなかった。「どこ行つてたの？うちの親父と。」網買いに付き合ってもらったんだ。今日は荒れて、船が出せなかったから。親父さんが一番、こういうの目が利くからな。」両手で大事そうに抱えている網を、隆士は自分の船まで運んでいく。なんとなく、俺はその姿を、じっと見守った。

隆士には小学校の頃、さんざん泳げないことをバカにされ、一時期避け気味にしていた。けれど中学の時に、夏休みの宿題が終わらないと泣きつかれたので手伝ってやったのをきっかけに、また距離が縮まった。その頃には隆士はもう、俺のことをバカにはしなくなっていたし。

「奥さんは来ていないのか？紹介してくれよ。美人なんだろう？今度、**②** 親父さんたちが東京に行くとき、俺も付いて行こうかな。飯ぐらいおごってくれるか？」船に網を載せ終えて、再び俺に近づきながら、隆士が言う。「は？親父が東京？」「しよっちゅう行ってるじゃん、バスツアーとかで。そんで、ほらこれ航が作ったんだって、外から撮ったマンションの写真、自慢してくるんだぜ。」隆士は声を上げて笑った。驚いていたが、**③** 愛想笑いをして、俺は誤魔化した。

「で、親父は？うちの。」そう聞いた直後、背後からカツンという音が聞こえてきた。さっき俺がパンを停めた道を、親父がゆっくりゆっくり、杖をつきながら、こちらに向かって歩いてくる。「うちの親父は？」隆士の問いに、**B** 売ってる。食堂の女の子と、そこで。」と、親父は少しだけ笑いながら言い、あごで脇道のほうを指した。「まったく。」とぼやきながら、隆士は陸の方に駆けていった。

カツン、カツン。親父の杖の音が、ある瞬間から、さくつというものに変わった。砂浜に足を踏み入れたのだ。一步一步、親父が俺のところまでやってくるのを、じっくり待った。一步一步、ゆっくりゆっくり、親父は俺に近づいてくる。

杖が止まった。親父が顔を上げて俺の顔を見る。俺はゆっくり、口を開いた。「次、東京に来るときは教えてくれ。飯ぐらい一緒に食べよう。綾も喜ぶよ。」親父は一瞬、表情を変えたが、結局そのことについては何も言わず、「ほら。」と杖を上げて、俺に背後を促した。

「雨が上がったから。富士山。」後ろを振り返った。雨上がりの海の向こう、岬の合間から、確かに見えた。富士山が。「綾さんが居るな、あの下に。」親父に言われて、ハツとする。そうだ。綾が、あの下に。あの、大きいいつも、そこにそびえ立っている富士山の下で、綾は育った。俺と同じように、自分には他に向いている生き方があるんじゃないかと思いついた。もしかして、綾は。あの日の朝、俺から逃げたいと思ったわけじゃなくて、見に行こうと思ったのかもしれない、**④** あれを。俺が海を見に行こうと思ったように。逃げたって嫌だったって仕方ない、いつもそこにある真実を見に。」

「おまえたちは、立派だ。」親父が呟いた。低い声で。「なににもないところに、自分たちの手दनにかを作り上げる。誰にでもできることじゃない。」そして親父は、海の方に目をやった。「子供のころ、電話をもらってから、母さんとずっと話してたんだ。」海面の光に、親父は目を細める。でも逸らさない。じっと眺めている。四十年以上もの間、毎日毎日漁に出た海を。今では出られない海を、じっと。「綾さんと航が、無事でよかった、って。」

俺も、海のほうに目をやってみた。**⑤** にじんできて見えないけれど、キラキラと光る海面が眩しくて、美しい。ざざん、ざざん。波音が耳に心地よい。そう。俺は、海が嫌いではない。だって海は、ときどき俺にこうやって教えてくれる。世界には沢山の哀しみが溢れているけれど、でも同時に、こんなにも美しく、愛おしい景色もあるんだということ。

問一 空欄 A・B に当てはまる語の組み合わせとして最も適当なものを次のア～エから

一つ選び、記号で答えなさい。

ア A 不信 B 喧嘩 イ A 親近 B 油

ウ A 違和 B 油 エ A 不快 B 喧嘩

問二 傍線部①「気が付いた」とあるが、どのようなことに気が付いたのか。二十五字程度で説明しなさい。

問三 傍線部②「親父さんたちが東京に行くとき」とあるが、なぜ父親は東京に行っているのか。解答欄に合うように答えなさい。

問四 傍線部③「愛想笑いをして、俺は誤魔化した」とあるが、「俺」はなぜ隆士に対してこのような態度を取ったのか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父親が東京に来ていることが嫌だと感じたから。

イ 写真を自慢していることが申し訳ないと感じたから。

ウ 父親の上京を自分は知らなかったことを、隆士に知られたくなかったから。

エ 父親が上京していることを隆士に知られていて恥ずかしかったから。

問五 傍線部④「あれ」について、次の各設問に答えなさい。

(一) 「俺」にとつての「海」であるように、「綾」にとつての「あれ」とは具体的に何か。

(二) 「綾」は何のために「あれ」を「見に行こうと思った」と「俺」は推測しているか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の故郷で自分の本質を作り上げた美しく、愛おしい景色と向き合おう思ったため。

イ 自分の知らない新たな世界を見てみたいと思ったため。

ウ 自分も故郷の美しい世界の一部になろうと思ったため。

エ 自分の嫌な部分を理解している「俺」から一旦距離を置いた方がよいと思ったため。

問六 傍線部⑤「にじんでしまっって見えない」のはなぜか。簡潔に説明しなさい。

③ 次の文章を読み、あとの問に答えなさい。

君たちは①「科学のようで科学ではないもの」に出会った経験はないだろうか？

A

一見すると科学のようだけど、本当に科学と言えるのかどうか定かではないもの。科学的な要素を利用して、別の目的を果たそうとしているもの。――B

科学の要素を利用し、別の目的を果たそうとしているもの。――B、血液型を想像してみるとわかりやすいかもしれない。君たちは友達と会話をするときに、「血液型は何型？」というのを挨拶代わりに使ったことはないだろうか？ あるいは、その人の血液型が「B型」であるというだけで会話が盛り上がった経験はないだろうか？ おそらく、ここで心当たりのある人は、血液型に性格が表れるということに真実性があると感じているのだろう。C

それがどういうメカニズムで実証されるのかと問われれば、きちんと答えられる人はいないはずだ。

また、一時期の健康ブームに乗って大流行した「マイナスイオン」というものについても同様のことが言える。この言葉には、いかにも科学的なイメージが漂うため、無条件にその効能を信じてしまう人もたくさんいるようだが、実は科学用語にそんなものは存在しない。こういった項目はすべて「ニセ科学」とでも呼ぶべきものである。

実際、現代の社会には「ニセ科学」がまん延している。科学のふりをすることで、不合理なことも堂々とまかりとおってしまったっている。これは、僕のように多少なりとも科学に携わる人間にとっては、うかうか見過ごせない問題だ。なにより、悪質な「ニセ科学」によって人生を大きく狂わせてしまうケースだってあるのだから。

(中略)

では②そもそも「科学」とは何か。

英語で表すと「science」(サイエンス)だが、元々の語源はラテン語の「scientia」(スキエンティア)という言葉に由来する。この「sci」というのは「知る」、「entia」というのは「成す」という意味を表す。「知るを成す」――D、総合的な知識を得るという意味だ。つまり、「science」という言葉は、本来は自然科学のみを指す言葉ではなく、さまざまな分野のさまざまな知識を得るという意味に使われていた。もっぱら自然科学のみを意味するようになったのは一九世紀半ば頃になってからである。

したがって、簡単に整理するなら、理論と実証によって客観世界・自然世界の普遍的な原理や法則を発見することが「科学」。別の表現をすれば、研究によって獲得し、実験によって確立した知識とも言える。つまり、研究し、実証するということが科学にとって非常に重要なことなのだ。加えて、科学には、いくつかの満たさねばならない要件がある。

例えば合理性。これは道理に適っているということ。それから論理性。すなわち筋道が通っているということ。そして実証性。実験や理論によって証明できるということ。それに普遍性。一つの事例だけに適用できるのではなく、似たような事例、あるいは質の異なった事例にも適用できるということが重要である。それから無私性。個人の意向や願望に左右されないということ。自分自身が「こうあってほしい」「絶対こうあるはずだ」と思う気持ちはもちろん大事だが、科学とは本来、そういう個人的な意向や希望・願望とは無関係に成立するものなのだ。

それから懐疑主義の必要性。つまり、疑義や批判を怠らないということ。実際、科学者というものは疑り深い人種だ。ある結果を示されたとき、それが本当かどうか必ず疑う。疑って疑って、そのうえで納得したときに、初めて「正しい」という言葉に到達する。心理を得るためにはまず疑うことが必要なのである。そして最後に、公有性。誰もが同じように使えるということ。つまり、「どこでも、いつでも、誰でも」が成立して初めて「科学」と言える。

③「科学」であるためには、これらすべての要件を満たしたものでなければならぬ。逆に言えば、これらの要件を満たさないものは科学とは言えない。すなわち、「ニセ科学」に属するのである。

(池内了『それは本当に科学なの?』より)

問一

空欄

A

D

にあてはまる接続表現としても最も適当なものを次の選択肢からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア すなわち

イ しかし

ウ あるいは

エ 例えば

問二

傍線部①『科学のようで科学ではないもの』について、次の設問に答えなさい。

(一) 「科学のようで科学ではないもの」とほぼ同じ意味で用いられている語句を本文中から四字で抜き出さない。

(二) 「科学のようで科学ではないもの」の具体例として本文中で挙げられているものを二つ答えなさい。

(三) 筆者が「科学のようで科学ではないもの」と呼ぶものの特徴として適切ではないものを、

ア～エから一つ選び記号で答えなさい。

ア 科学的な言葉やイメージを利用している。

イ 実験や理論によって証明されている。

ウ 科学のように見えて、科学としての要件を満たしていない。

エ 一般の人々に広まりやすい。

問三

傍線部③『科学』であるためには、これらすべての要件を満たしたものでなければならな

い」とあるが、「科学」が満たさねばならない要件は全部でいくつ挙げられているか。漢数字で答えなさい。

四 次の古文を読み、後の問いに答えなさい。

—とある暴れ馬が、仁和寺で盛んな加持祈祷が行われた際に、献上された。
中ごろ、六の葦毛といふ*あがり馬ありけり。アいつれの*御室にか、*大法をおこなはせ^①い給ひけるに、*引き進ぜられにけるを、ある*房官にたまはせてけり。^②あがり馬とも知らで乗りありきけるほどに、ある時、京へいでけるに、知りたる人、道にあひて、この馬を見て、「^③いかにさしものあがり馬の名物、六の葦毛には、かく乗り給へるぞ」と^④臆して手綱をつよくひかへたりけるに、やがてあがりて投げけるに、てんさかさまに落ちて、かしらをさんざんに突きわりにけり。^⑤をかしかりけることなり。

(『古今著聞集』より)

〔語注〕

*あがり馬：暴れ馬 *御室：仁和寺の住職
*引き進ぜられにけるを：差し上げられたものを
*房官：寺の事務的な仕事を行う人。出家していない場合もある。

問一 波線部ア・イを全てひらがなの現代仮名遣いに直しなさい。

問二 傍線部①「あがり馬とも知らで」と傍線部③「言ひたりける」の主語を、それぞれ本文中から抜き出さない。

問三 傍線部②「いかにさしものあがり馬の名物、六の葦毛には、かく乗り給へるぞ」の内容として、最も適当なものを次の選択肢から選び、記号で答えなさい。
ア どうにかして有名な暴れ馬に、あのように乗ってみたい。
イ どうやってあの有名な暴れ馬を、乗れるように調教するのか。
ウ さぞ有名な暴れ馬だから、あのように乗っているのだろう。
エ たとえあれほど有名な暴れ馬でも、乗ることができるのだなあ。

問四 傍線部④「臆して手綱をつよくひかへたりける」のようにした理由の説明として、次の文の空欄に当てはまる言葉を本文中から指定の字数で抜き出しなさい。
自分の乗っている馬が【四字】だと知ったから。

問五 傍線部⑤「をかしかりけることなり」を現代語訳しなさい。

問六 この文章のように、知らない方がかえって物事がうまくいくことを表した慣用表現として、次の空欄に当てはまる漢字を一字書きなさい。
知らぬが□

五 作文

今までで誰かと協力して達成したことを、それを通して学んだことについて書きなさい。

- 1 原稿用紙の書き方に従うこと。
- 2 題名・氏名は原稿用紙のマスには書かずに、始めの行から書き出すこと。
- 3 字数は、百五十文字以上、二百字以内で書くこと。
- 4 できるだけ漢字を使って書くこと。

【配点】

一 全て2点ずつ 〈30点〉

二 問一 2点
問二 3点
問三 3点
問四 3点
問五 (一)3点 (二)2点
問六 3点 〈19点〉

三 問一 2点×4
問二 (一)2点 (二)2点×2 (三)2点
問三 2点 〈18点〉

四 問一 2点×2
問二 2点×2
問三 2点
問四 2点
問五 3点
問六 3点 〈18点〉

五 〈15点〉